

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第3回)

- 1 日時 令和6年2月16日(火) 9:45~12:05
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 山口 慎二委員(委員長)、二見 隆江委員、小松 明委員、
村山 紀行委員、奥谷 婦貴子委員、
住田 晶子校長、長野 真武総括教諭、前田 潤子教頭

4 会議の内容

(1) 授業参観

- 校長：本校は20名前後のクラスが多い。規定では次年度6年生は1クラスとなる。学校としては、2クラスに分けたいと考えているが、みなさまのご意見を伺いたい。
- 村山委員：2クラスに分けた方がいい。合同でできる学習があるし、分けた方が競争する。
- 奥谷委員：2クラスに分けた方が手厚い指導になると思う。
- 二見委員：有馬は学力が落ちる特徴がある。中学に上がる最後の1年となる。
- 小松委員：少人数を生かし、目的に応じて合同で工夫した指導を展開して欲しい。

(2) 全国学力・学習状況調査結果・学校評価について

- 山口委員：家庭での学習に塾は含まれるのか？塾に通っている児童の割合はどれくらいか。
- 奥谷委員：6年生は結構行っている。駅前までバスで行ったり、親が送迎したりしている。
- 二見委員：安全面についての意識が高いのは嬉しい。今年度登下校中の事故がなかったこともよい。1年生が4月当初にあいさつの声をかけても下を向いていたのが、返事が返ってくるようになった。一番心配なのは朝ご飯をとらないで登校している子がどれくらいいますか。明らかに心配な様子で登校してくる子はいないか。
- 教頭：朝の昇降口でそのような様子は見られない。
- 山口委員：困ったときに先生に相談するのが増えたのか？子どもたちは誰に相談しているのだろう。相談する相手が分かる項目になるとよいのではないか。
- 二見委員：SOS ミニレターの存在が年々浸透してきたのが分かる。
- 校長：市教委がiPadに相談アイコンを作成した。
- 奥谷委員：息子は困っていることがないから、相談しないに○をつけていそうに思う。
- 小松委員：本当に困っている子が、困ったと言えない環境はよくない。
- 二見委員：幼少期から何かあったときに大人に伝える訓練が大切。
- 校長：大人が様子の変化をキャッチして対応していくことも大切。それが相談につながる。

二見委員：学校が楽しいと感じている児童が多いのはすごいですね。

教 頭：休み時間によく遊んでいます。

二見委員：子供同士遊んでぶつかって関係を良くしていくことが大切です。いじめゼロがいいことではない。調査に学校は身構えるが、遊んで喧嘩して、フォローを皆でしていくことが大切。仲直りの成功体験を積ませたい。

山口委員：解決能力を身につけて欲しい。子どもも学んでいく。親や教師は助言者となり子ども同士で解決させたい。

(3) 通学かばんについて

校 長：この報告資料はホームページで公開している。新入学説明会で周知した後、在校生保護者にも報告資料を配付した。2月19日の朝会で児童にも周知する。

二見委員：低学年のランドセルの初々しさは変わらないが、選択できることはありがたい。海老名市で先陣をきりましたね。

(4) はるにれフェスタ、PTA 改革について

教 務：PTA だけではなく、学校や応援団もブースを出す文化祭のイメージで計画。子どもが楽しめる体験ができるようにするとともに、有馬地区のイベントとなり、地域とさらにつながることを目指したい。

二見委員：はるにれフェスタについては、昔、地域の方は楽しみにしていた。野菜を無償提供してバザーを開いていた。

村山委員：学校行事として行われるということは、子どもたちは代休になるということか？

校 長：自由参加であるのに、児童の参加率が高かったこともあり、よりよい形にしていきたい。

教 務：令和7年度を目指してPTAの組織について見直している。残す取組と削減しても良い取組を精選中。

校 長：今後、この会でも情報提供していく。

山口委員：削減と言っても、市のあて職への考えは？

教 務：単P会は情報交換の場になっているそうですが。

二見委員：全Pの会議に出席するだけでも開催地によっては宿泊をしないとイケない。やると成果はあるが、時代は変わってきている。

小松委員：教育委員会は単P会、県P会を切り離している。

山口委員：大もとのP連の組織が変わらないとイケないのでは。

小松委員：単P会は意思決定ではなく、協議の場である。県Pの行事にかり出されることになってしまう。

山口委員：県Pが負担を強いている。学校だけのボランティアなら保護者は集まる。

小松委員：負担感が先行して、本部役員をするのが嫌だという風潮になっているのでは。

二見委員：今泉小学校は行事ごとにボランティアが集まり、うまく運営されている。昔、P会長は名誉職でなりたくてもなれなかった。

小松委員：保護者は地区、自治会、学校役員が集中してしまう世代である。共働き家庭も増えているので、落としどころを見つけていけないとイケない。

奥谷委員：決められた日にPTAで集合するのが苦しい。逆に本部になると日時を決められる。

小松委員：Webミーティングを活用していくとよい。

奥谷委員：LINE会議等で昼休みの30分で話し合う等、工夫すると負担感が減ると思う。

校長：楽しい気持ちがPTA活動への原動力になるように。

奥谷委員：興味の持てない内容の動員について、子どもを置いて、仕事を休んで出席することも苦しい。

小松委員：それも、ZOOM配信で参加させてくれると。

(5) 令和6年度学校予算について

教頭：3つの事業費について説明。予算の獲得が苦しい現状がある。

山口委員：作った物を農家のように売るといふ農家のような実際に流通を体験する学習をするのもよい。そこまで学校の裁量でできるとよい。

奥谷委員：サツマイモがたくさん収穫できている様子を見た。焼き芋大会を開催して保護者に販売するのはどうか。

小松委員：売り上げが上がると所得税がかかる。20万以上は年度内に精算しないといけないが、販売することは、経済の仕組みが勉強になる。

(6) その他(学校便りの内容、サイバー教室、フルインクルーシブ教育について)

校長：サイバー教室等、6年生がよく活動している。

山口委員：子どもが子どもに伝えると内容が入るといふのがよく分かる。

小松委員：アウトプットすることで子どもが深く学ぶ。

二見委員：フルインクルーシブについて、地域で子どもを育てる教育になっていくのがよい。だんだんとその意識が浸透していくとよい。

(7) 次回の日程確認、閉会

※次回開催予定 令和6年6月